

「パブリック・コメント制度」提出意見に対する考え方

1 案件名	越前市食と農の創造ビジョン基本構想（案）について
2 実施日	平成 20 年 12 月 15 日(月)～平成 21 年 1 月 8 日(木)
3 趣旨	<p>(策定の趣旨)</p> <p>現在、食品偽造や賞味期限の改ざん、汚染米など食の安全・安心に関する様々な問題が発生しています。</p> <p>また、農業においても担い手の高齢化や後継者不足、米価の下落、農地の荒廃などの問題により、厳しい状況に置かれています。</p> <p>さらに、消費者の農業に対する関心が低くなっていることも指摘されています。</p> <p>このようなことから、食の現状を見つめ直し、食を支える農業の大切さを市民が理解・共有し、次世代に継承できる農業や自然環境を育むために、おおむね 10 年後の越前市の食と農のあるべき姿を示そうと策定するものです。</p>
4 意見提出者数(件数)	5 人(7 件) 設問のみ 0 人
5 意見に対する考え方	以下のとおり

【全般に関して】

意見概要	考え方・対応
<p>「食」と「農」のほかに「環境」を立てるべきだと思います。近年温暖化対策としての農の果たす役割も明らかにされました。</p> <p>また、今議会の市長の提案理由には「環境と調和した安全で安心な農業を推進する」としっかり明記されました。農はまさしく地域の環境を創るものです。そして、環境農業や有機農業の推進「農の多面的機能」のうち、農の環境に果たす役割を明記し、その保全や推進を挙げるべきだと思います。</p> <p>それが無理なら、「農」の箇所に、しっかり「環境農業の推進」を打ち出すべき。こだわり農業とか生きがい農業という言葉の中にあるのかもしれないが、しっかり「環境農業の推進」を書くべき。</p> <p>時代を見据えた自治体はすでにその方向で動きだしています。</p> <p>農も食も環境も一連のもの、つながっているのになぜ「環境」が抜けているのでしょうか。越前市だけが言っているのではなく国上げて（有機農業推進法もできた。計画もつくらなくていけない）推進している時代に、まして 10 年後の農業を見据えたビジョンであるにもかかわらず環境という言葉が弱い（表に出さない）のか不思議でなりません。</p> <p>私に判るように説明してください。</p>	<p>・本市の農業は極めて厳しい状況にあり、その活性化を図るとともに、次世代に継承できる農業となるためには、概ね 10 年後のあるべき姿を示す必要があることから、基本構想の策定に着手しました。</p> <p>策定の過程において、生産者や流通者、消費者など様々な立場からご意見といただき、「食と農の関係を取り戻すこと」や「食と農の関係を再構築するために行動すること」など、食と農のつながりの重要性や必要性を強く認識したことから、「食と農の創造」に取組もうとするものです。</p> <p>ご提案いただいた「環境」に関しては、「2 私たちが目指す食と農のすがた」の中で「(3) 農を基盤とした豊かな自然環境と人と人が絆で結ばれた地域社会を創る」として、この「基本構想」の目標の一つに掲げています。</p> <p>また、「(2) たくましさ、やりがい、こだわりのある農を創る」の中では、「環境に配慮した農業の推進が求められていることから、環境調和型農業の推進、資源循環型農業の取組みを検討します」としています。</p> <p>このように、農業・農村の振興や活性化を図るうえでの「環境」の重要性について認識しています。</p>

<p>「食」と「農」のほかに「環境」を前面に打ち出すと、「創造」という言葉の意味が明確になるのでは。</p> <p>しかし、今さら名称変更は不可能だと思うので、サブテーマを設定してはどうか。例えば、『豊か名自然環境と農村社会の創造』</p>	<p>・「食と農の創造」は新しい言葉ですが、「1 取り組むわけ (2) 食と農の創造の必要性」の中から『食と農の問題を真剣に考え理解し、食と農の関係を再構築する』ことと、ご理解いただけたらと思います。</p> <p>また、サブテーマの設定については、平成21年度に基本計画や実践プログラムを策定する中で検討してまいります。</p>
--	---

【食育に関して】

<p>「食」の中に「食育」の推進という項目を明確にすべき。(食、農を通した人づくり)</p>	<p>・食育の推進は、「食と農の創造」において、重要な取組みの一つです。</p> <p>「基本構想」の「2 目指す食と農のすがた (1) からだところを育む潤いのある食を創る」の中で、『家庭、学校、地域を舞台とした食育を展開する必要があります』としており、ご意見の主旨を踏まえた内容としています。</p> <p>また、これまで市では、食育フェアの開催や体験活動の実施など様々な事業を展開してきました。今後も、地域住民の皆さんの協力を得て、人材育成も含めた食育を推進してまいります。</p>
<p>今般の農業を取巻く状況は大変厳しい。この中で市が新たに食と農に関する施策に取り組むことは心強く、ぜひ力をいれてください。</p> <p>特に、食べ物があり余る今日において、天の恵みである農産物への感謝の気持ち。それを支える農業の重要性を伝えることが大切であること。</p> <p>また、体と心を育む食の正しい生活の実現に向けて市としてできる限りの支援を行っていくことが、今後の農業の発展に繋がっていくものと考えます。</p>	<p>・「感謝の気持ち」については、食と農の創造策定審議会において検討し、「本ビジョンの食育の考え方」の中に加えることといたしました。</p> <p>また、具体的な市の支援については、平成21年度に策定する基本計画や実践プログラムの中で検討してまいります。</p>

【地産地消について】

<p>地元農産物の販売を促進してほしい。</p>	<p>「基本構想」においても、「2 目指す食と農のすがた (1) からだところを育む潤いのある食を創る」の中で、『食と農を結ぶ拠りどころの一つとして農産物直販所を活用し、必要に応じてこのような拠点施設の設置を支援します』としており、ご意見の主旨を踏まえた内容としています。</p>
--------------------------	--

<p>菜の花の種を田に播いて、有機栽培に役立たたいと思います。</p> <p>有機米を地元で消費する働きかけができれば、農村景観の保全と地産地消の推進の一石二鳥となるのではと思っています。</p> <p>現在の特別栽培米は都市へ販売することを考えている様ですが、地元で消費されることを農家は望んでいます。</p> <p>市の施策として考えてもらえるとうれしく思います。</p>	<p>・地産地消の推進は、「食と農の創造」において重要な取組みの一つです。</p> <p>「基本構想」においても、「2 目指す食と農のすがた(1)からだところを育む潤いのある食を創る」の中で、『地(地産地消)を実感する食生活について、みんなが学びながら、その実現を目指します』とするとともに、『地元農産物活用に向けた学校給食の推進や地元企業への理解促進』を掲げています。</p> <p>なお、具体的な施策については、平成21年度に策定する基本計画や実践プログラムの中で検討してまいります。</p>
--	--

【条例について】

<p>条例を制定したら、終わりではない。</p>	<p>・ご意見のとおり、条例は「食と農の創造ビジョン」の実行性を高めるために制定しようとするものです。</p> <p>今後も地域住民の皆さんと協働し、「基本構想」の目指す姿の実現に努めてまいります。</p>
--------------------------	---